

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子や工夫を理解している。
- (思・判・表) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、販売に携わっている人々の仕事の様子や工夫について考え表現している。
- (学びに向かう力等) 地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたりふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

ICT活用のポイント 課題意識の喚起と整理・分類・比較による思考の深まりを意識した授業

【つかむ】

家の人がよく行く店を調べ、学習問題をつくる。

スーパーマーケットではたらく人は、多くの人々に買い物をしてもらうために、どのような工夫をしているのだろうか。

【追究する】

スーパーマーケットではたらく人の工夫や取り組みを調べる。

【まとめる】

スーパーマーケットではたらく人の工夫についてタブレットでまとめる。

事例の概要

- 家の人がよく行くお店について、その店を選ぶ理由を思考ツールを用いて整理し、児童同士共有を図る。
- 共同編集機能を用いて、出された意見を比較・分類しながら、その特徴を考える。

【事例におけるICT活用の場面①】

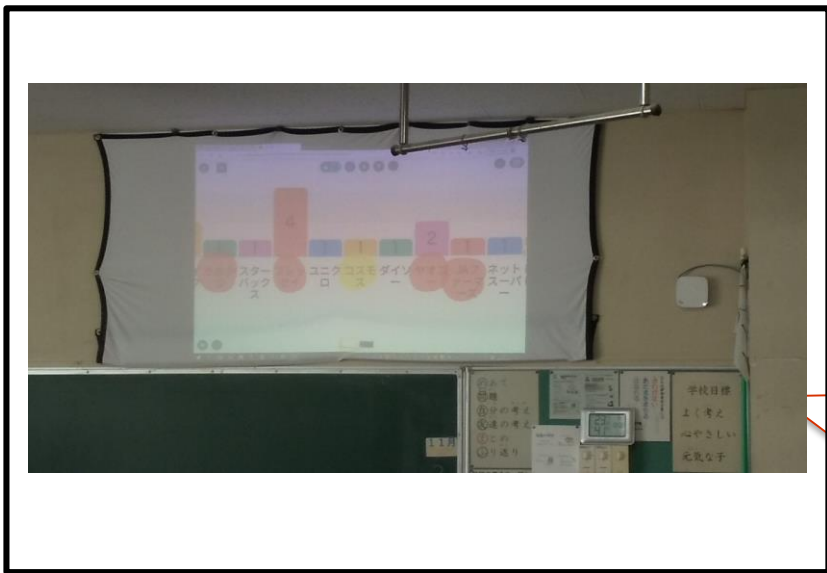
- 家の人があるお店によく行くのか前時で確認した集計グラフをプロジェクターで提示し、前時の復習と本時の導入として活用する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 家の人がお店を選んだ理由を店の種別毎に項目を分けたYチャートに整理する。
- グループで共同編集機能を用いて、出された意見を比較・分類し、その特徴を短い文章でまとめる。

【社会・小3・「スーパーマーケットではたらく人」】②

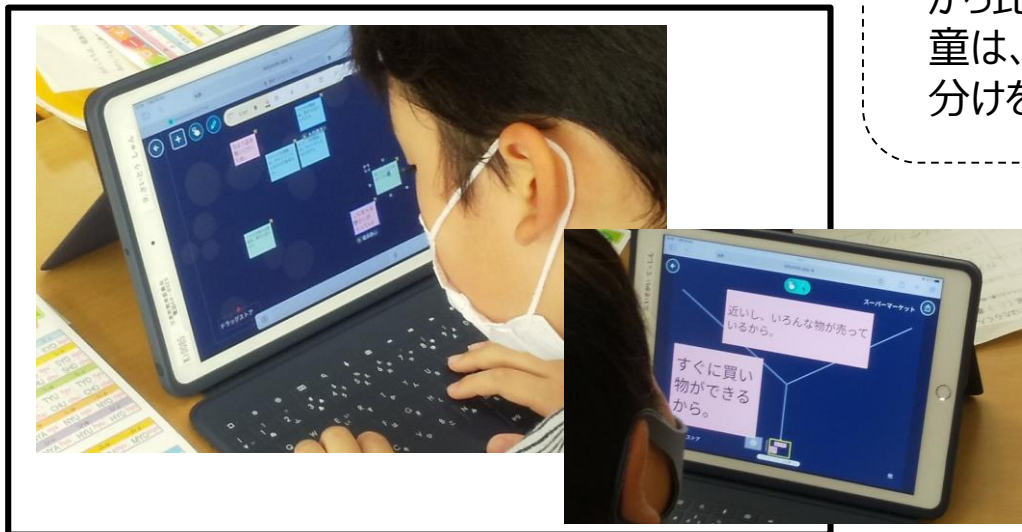
【事例におけるICT活用の場面①】



- 家の人がよく行くお店について、前時にまとめたアンケート結果をグラフで見ることにより、児童は前時の内容について再確認できるとともに、よく利用されるお店をしっかりと確認し、次なる活動への意欲を高めていた。
- 店種毎の色分けの工夫により、児童同士がスーパーマーケット、ドラッグストア等のイメージを共有して学習活動に取り組むことができた。

- 前時で用いたアンケート結果の集計グラフを授業支援ソフトにより再提示する。児童は前時の学習を想起し、課題意識が高まる。
- アンケート結果のグラフ化により見やすくなり、必要な場面ですぐに提示したりすることは、学習支援におけるICT活用の大きなメリットである。

【事例におけるICT活用の場面②】



- 学習支援ソフトを活用し、自分の調べてきたことを付箋に書き込み、グループで共有しているページに貼り付ける。それらを、グループで移動させながら比較、分類し、その店が選ばれるわけを短い文章にまとめていく。児童は、他者の意見をしっかりと確認して、似ている意見をまとめたり、種類分けを行ったりしながら、その店の特徴を考えていた。

- 思考ツールを活用し、家の人がある店を選ぶ理由を友達と共有画面で互いに移動させながら整理、比較、分類し、その特徴を短い言葉にまとめることで思考が深まる。
- 画面共有や共同編集は、ICTを用いることで容易に行える学習活動である。

【活用したソフトや機能】 ・学習支援ソフト ・グラフィック ・思考ツール ・画面共有機能 ・共同編集機能